

「平成28年度施策・事業評価(平成27年度分)」推進委員会評価コメント事務局取りまとめ(案)

■基本方針5、施策18、推進する取組36、取組の内容72(うち実施58、検討13、調査1)

基本方針	施策	推進する取組	取組の内容	H28年度 推進委員会評価コメント事務局取りまとめ(案)	(参考)H27年度 推進委員会評価コメント
基本方針1 「参加のきっかけづくり」					
施策1 多様なメディアによる情報提供①					
		【1-1-1】 市が発行している各種 刊行物による情報提供	① 文化芸術関連の情報 発信 <実施プロ担当>	① 文化芸術関連の情報発信及び施設における掲示による情報提供については、積極的に告知を行うようになってきており、ある程度評価はできる。また、ICT活用における文化芸術関連情報については、HPの「トピックス」や「イベント」に掲載することが重要である。	① 「対話による美術鑑賞」事業に、共同通信社の取材が入って多くの新聞に掲載され、情報が全国に広がったことは評価できるが、市内への積極的な周知も必要である。
		【1-1-2】 公共機関等の施設に おける掲示による情報 提供	① 施設における掲示を検討 <実施プロ担当>	市報については、まだまだ工夫が必要であり、市民文化祭などは一面に掲載し、多くの市民にアピールする必要があるのでは。 これからは、メディアの使い分けや連携を総合的に考えることが大切であり、トータルでPR戦略を考えられる人材、セクションがあると良い。その際、アウトソーシングを上手く活用すべきである。	また、ICTを積極的に活用し、情報を発信することにより、市HP及び市フェイスブックに多くのアクセスがあったことは評価できるので、さらに一層の地域メディアを活用した情報提供をしていくとともに、人から伝え聞く口コミ等も情報提供の方法として検討する必要がある。
		【1-1-3】 ホームページ等のICT 活用による情報提供	① ICT活用における文化 芸術関連情報について 検討 <実施プロ担当>	計画で文化の香りあふれるまちを目指しているのであれば、SNSに不慣れな高齢者も多いので、文化芸術通信などを作成し、ここに行けば何が見られるというような情報を発信すべきである。情報を1ページにまとめて市報に折り込むなどを検討することも必要である。情報誌作成に当たっても、アウトソーシングを検討してもいいのでは。	今後は、イベントの目的や対象によって情報発信の媒体を変えたり、情報を発信するタイミングを検討したりするなど、効果的に情報を発信していく方策を検討していく必要があり、その際、誰が発信していくのかなど、アウトソーシングについても考える必要がある。
		【1-1-4】 その他地域メディアを 活用した情報提供	① その他情報提供につ いて検討		
施策2 幅広い年齢層が参加できる体験・鑑賞機会の充実②					
		【1-2-1】 年代ごとの文化芸術に 関するニーズ把握	① 子供のニーズを把握 ② 成人のニーズを把握 ③ 高齢者のニーズを把握 ④ 外国籍市民及び障害 者のニーズを把握	② 市民まつり、市民文化祭どちらも多くの市民の参加があり、市民の声を生かす場になっていると思うが、いろいろの視点を持った市民や団体、企業の意見を聞いて、さらにこれから西東京市の誇りとなってほしい。市民ワークショップの開催も検討する必要があるのでは。 市民まつりや市民文化祭など伝統を継続していくことは良いことだと思うので、伝統を尊重しつつ少しずつ改善していくといいのでは。	② 幅広い年齢層のニーズを把握し、そのニーズに沿った事業を実施することも大切ではあるが、文化芸術活動団体のニーズについては、ヒアリングをしてニーズを的確に把握することが効果的である。
		【1-2-2】 市民ニーズに基づく事 業の充実	① 保谷こもれびホール事 業 <実施プロ担当> ② 市民又は活動団体に よる事業展開の調査 研究 ③ 行政による事業 <実施プロ担当>	市民文化祭は様々な文化領域において、市民が自らのニーズに合わせて自身で企画・運営する事業であるので、文化都市を目指す市はこれらの活動を大いに支援すべきである。 高齢者の数が増加してゆく時代にあって、市民文化祭は高齢者の身近なところに様々な活動の場を提供することができるので、市民生活の活性化に大いに貢献している。 外国籍市民については、高齢者同様に孤立させないことが重要であり、外国籍市民の活発な活動は市を活性化させるので、日本の伝統文化のレクチャーをボランティア通訳付で行った方が良い。	また、ニーズの把握からは「対話による美術鑑賞」事業のような特色のある事業は出てこないもので、行政が長期的なビジョンを持って魅力のある事業を積極的に推進することも必要である。 西東京市民会館については、耐震補強工事が必要であるという診断結果が出ている以上、3館合築複合化に向けた検討と並行して耐震化についても検討していくべきである。
		【1-2-3】 市民ニーズに基づく施 設の充実	① 西東京市民会館のあり 方について検討 ② 保谷こもれびホール施 設の改修 ③ 公共施設の充実 ④ 民間施設について調 査	保谷こもれびホールは市の北東に位置しており、芝久保町、向台町の市民が足を運びにくいので、保谷駅に向かうバス便を増やすなどバス会社と調整する必要があるのでは。 合築複合化については、まず、どのような施設が必要なのかを検討することが必要であり、議論をもとにする必要もある。 また、市の西部に位置する市民会館公会堂の代替施設を考える場合は、その規模としては市民の文化芸術発表の場として小規模の(200~300席)ホールのニーズが大きいと考えられる。 市民のニーズに基づく施設の充実ということであれば、保谷こもれびホールのピアノの台数を増やすことも必要では。	公民館・図書館については、事業を効果的に推進するためには、面積を拡充する必要があり、そのことにより、地域・行政資料室の機能が充実することが望ましい。

■基本方針5、施策18、推進する取組36、取組の内容72(うち実施58、検討13、調査1)

基本方針	施策	推進する取組	取組の内容	H28年度 推進委員会評価コメント事務局取りまとめ(案)	(参考)H27年度 推進委員会評価コメント
施策3 子供達の参加の機会の充実③					
		<p>【1-3-1】 子供向け文化芸術の鑑賞機会や体験機会の充実</p> <p>【1-3-2】 学校教育における文化芸術に関する取組の充実</p>	<p>① 保谷こもれびホール事業</p> <p>② 市民又は活動団体による事業展開の調査研究</p> <p>③ 行政による事業 (実施プロ該当)</p> <p>① 校内学芸的行事</p> <p>② その他学芸的行事の実施 (実施プロ該当)</p>	<p>③ 保谷こもれびホールでは、優良な子ども向け事業活動を実施する市民文化団体や青少年が構成メンバーである市民文化団体との共催事業を推進しており、高く評価できる。</p> <p>保谷こもれびホール及び行政による子ども向け事業は高く評価できるが、子ども関連事業のニーズを前提としながら、可能な限りの便宜・支援を図る方向で努力すべきである。施設利用に関しては、子どもを優遇してもいいのでは。</p> <p>小学校での「対話による美術鑑賞」授業は、とても良い事業だと思うので、アートミーの数を増やして、学校が繁忙期でない月に3校から4校で実施できるといいのでは。</p> <p>市民文化祭では様々な分野で親子体験教室を継続して開催しており、参加者から好評を得ている。この努力をさらに続けるべきである。</p> <p>小学校、中学校、高等学校の生徒が、その作品や演技を市民文化祭で発表する機会が徐々に増えてきていることは、これまで成人が主力であった市民文化祭に子どもが参加することによって文化の継承を推進する観点から大変望ましいことである。これまでは指導教員個人の熱意により実現することがほとんどであったが、学校全体として取り上げて、継続して取り組むべきである。</p> <p>学校の先生の文化芸術活動に対する取組姿勢によって、子どもの発表の機会に差が出ているように思われる。子どもの発表の機会を維持し、充実させるためには、小中学校の連携や学校以外の活動の場を増やしていくことが必要である。</p>	<p>③ 子ども向けに様々な事業を実施していることは評価できるが、どこで何を行っているかという情報を市民が共有していくことも必要である。</p> <p>「対話による美術鑑賞」事業は、市の計画に基づいた特色ある事業なので、引き続き推進すべきであり、小学校での定着及び充実を図るためには、ボランティアの数を増やし、質を維持・向上させることが大切である。</p> <p>また、多摩六都フェア「映画制作ワークショップ」を実施し、1年間で映画を完成させ上映発表会を開催したことは評価できる。今後もこのような特色ある事業を積極的に推進し、西東京市のカラーを打ち出していく必要がある。</p> <p>学校に不特定多数の人を集めるのは難しいとは思いますが、学校に老人ホームの利用者を招待したり、子どもと大人が交流できる文化芸術事業を実施したりすることにより、子どもの参加の機会の充実を図る必要がある。</p>
施策4 個人及び団体活動のきっかけづくり④					
		<p>【1-4-1】 参加型イベントや入門講座の充実</p> <p>【1-4-2】 活動団体のPRの充実</p>	<p>① 保谷こもれびホール事業 (実施プロ該当)</p> <p>② 市民又は活動団体による事業展開の調査研究</p> <p>③ 行政による事業 (実施プロ該当)</p> <p>① 保谷こもれびホール事業</p> <p>② 市民又は活動団体による事業展開の調査研究</p> <p>③ 西東京市民文化祭 (実施プロ該当)</p> <p>④ 西東京市民まつり (実施プロ該当)</p> <p>⑤ 行政による事業</p>	<p>④ 保谷こもれびホール事業については、もっとワークショップをやるべきで、ワークショップは、成人のニーズの受け皿になると考えている。もっと工夫して多様な芸術分野の専門家を迎えるようにしてほしい。</p> <p>多摩六都フェア事業で映画をテーマとしたワークショップを数年間実施して、多くの市民参加があることはとても良いことだと思う。一つの映画というテーマを続けることで、映画が西東京市の文化となっていくと思う。市民活動も活発であり、西東京市の市民映画祭は秩父映画祭に匹敵するのではと思っている。</p> <p>映像制作ワークショップは、内容が充実しており、参加者のスキルもアップし、人に誇れる作品が完成したことは、とても評価できる。今後もこのような特色のある事業を積極的に推進し、西東京市のカラーを出していく必要がある。</p> <p>図書館開館40周年記念については、テーマによっては当市民に関わる内容に限定せず幅広く設定し、全都的に全国的に発信できる内容であったため、大変好評で当市の文化芸術の発信力は大きかったと思われる。周年事業としては、4事業を主催したがこれだけ多くの発信力を持つ内容ならば、今後は毎年1事業ずつでも継続して実施してはどうか。</p> <p>また、図書館で実施している講座のレベルが非常に高い。地元の文化人を招いて良い講座を実施していることはとても評価できる。</p> <p>市民文化祭では20に及ぶ文化部門で4千人の市民が参加しており、参加型イベントとしてのめざましい成功例であるといえる。市のさらなる支援を期待する。</p> <p>市民文化祭参加団体の多くは高齢者、障害者への慰問活動を行っており、また菊花展では多数の高齢者団体の見学を受け入れて、ともに好評を得ている。これらは特に高齢者や障害者に対する鑑賞機会の提供という観点からさらに拡充されるべきである。</p> <p>また、高齢者や障害者が参加しやすくなるように、会場のバリアフリー化に努めるべきである。</p> <p>市民文化祭及び市民まつりについては、多くの市民参加があり一定の評価ができる。</p>	<p>④ 保谷こもれびホール事業において、様々な参加型イベントやワークショップを実施していることは評価できるので、引き続き満足度の高いワークショップを実施していく必要がある。</p> <p>また、多摩六都フェア「映画制作ワークショップ」を実施し、1年間で映画を完成させ上映発表会を開催したことは評価できる。今後もこのような特色ある事業を積極的に推進し、西東京市のカラーを打ち出していく必要がある。</p> <p>団体活動のきっかけづくりは、協働コミュニティ課の市民協働推進センターゆめこらぼと連携して進めていくべきであり、文化芸術活動をしている団体と団体とのコラボレーションも積極的に推進していくべきである。</p>

■基本方針5、施策18、推進する取組36、取組の内容72(うち実施58、検討13、調査1)

基本方針	施策	推進する取組	取組の内容	H28年度 推進委員会評価コメント事務局取りまとめ(案)	(参考)H27年度 推進委員会評価コメント
施策5 様々な人が参加しやすい環境づくり⑤					
		<p>【1-5-1】文化芸術関連情報をバリアフリー化して提供</p> <p>【1-5-2】外国籍市民や障害者が参加できるイベントや講座の充実</p>	<p>① 外国籍市民への情報提供</p> <p>② 障害者への情報提供</p> <p>③ 市民又は活動団体による情報提供の調査研究</p> <p>① 外国籍市民が交流できるイベントや事業の実施</p> <p>② 障害者が交流できるイベントや事業の実施</p> <p>③ 市民又は活動団体による事業展開の調査研究</p>	<p>⑤</p> <p>くらしの情報(市報抜粋・多言語版)の発行は、外国籍市民が文化芸術関連情報を取得するための有効な取組であるので、もっと発行部数を増やすべきであり、市ホームページにも掲載する必要がある。</p> <p>外国籍市民については、高齢者同様に孤立させないことが重要であり、そのためには、参加しやすい環境づくりや分かりやすい情報の提供が大切である。</p>	<p>⑤</p> <p>くらしの情報(市報抜粋・多言語版)の発行は、外国籍市民が文化芸術関連情報を取得するための有効な取組であり、多文化共生社会の形成を進める取組として評価できる。</p> <p>また、外国籍市民や障害者が参加できるイベントは充実しているが、様々な人が参加しやすい環境にするためには、施設のバリアフリー情報を必要としている人に分かりやすく提供していく工夫が必要である。</p>
基本方針2 「市民が活動しやすい環境づくり」					
施策1 活動者のニーズ把握⑥					
		<p>【2-1-1】文化芸術活動者に関するニーズ把握</p>	<p>① 活動者のニーズ把握及び情報提供 (実施プロ担当)</p>	<p>⑥</p> <p>活動者のニーズ把握については、一定の評価ができるが、子ども関係の団体、文化芸術各ジャンルの主な団体に個別にアプローチし、ニーズや意見を把握する必要がある。</p> <p>また、西東京市出身、西東京市在住の芸術家などからも意見を聞く必要もあると考える。</p> <p>市民会館やこもれびホールなどの利用者懇談会は継続し、利用者のニーズ把握に努める必要がある。市民会館での参加者が増えているのは評価できる。</p> <p>「利用者以外の人からの意見を幅広く集める必要がある」という昨年度の評価コメントに対して、所管課がどのような取組をしているのかを実績に入れる必要がある。</p> <p>ニーズに左右されることなく、長期的な計画に基づいた市民が活動しやすい環境づくりに取り組んでいく必要もある。</p>	<p>⑥</p> <p>実際に利用した人以外からの情報をどう集めるかが課題であり、総合的な文化芸術情報サイトを立ち上げ、文化芸術活動を活性化するとともに、利用者以外の人からの意見を幅広く集める必要がある。</p> <p>一方、ニーズに左右されることなく、長期的な計画に基づいた市民が活動しやすい環境づくりに取り組んでいく必要もある。</p>
施策2 文化芸術の情報拠点の明確化⑦					
		<p>【2-2-1】情報拠点の明確化</p> <p>【2-2-2】情報拠点のPR</p>	<p>① 公共機関及びICT活用における情報拠点を検討</p> <p>② 保谷こもれびホールにおける情報発信拠点を検討</p> <p>③ 図書館の地域資料の活用</p> <p>① 情報拠点のPRと活用 (実施プロ担当)</p>	<p>⑦</p> <p>地域の文化芸術情報を、効果的につなぎ合わせることでできる文化芸術の情報拠点は必要であり、効果的な情報を発信していくべきである。また、その際、発信する「人」が重要であり、外部の力を生かし、協働で進めていく必要があるのでは。</p> <p>保谷こもれびホールを情報発信拠点とするならば、市内各文化施設のイベント基本情報を「イベントカレンダー」という形で、保谷こもれびホール情報誌「イベントニュース」に掲載する、あるいは別刷りにして「イベントニュース」と同時に配布することを提案する。公民館だより、図書館だより等と競合するのではなく、「いつでもどこで何をやっているのか」という基本情報のみを総括的に一元化することで市民ニーズ(利便性)に答えることができるのでは。</p> <p>図書館で「縁」を作成し発行したことは、とても素晴らしく、図書館に地域資料の活用という観点からも高く評価できる。</p>	<p>⑦</p> <p>地域の文化芸術情報を、効果的につなぎ合わせることでできる文化芸術の情報拠点は必要であり、拠点となる総合的な文化芸術情報サイトを立ち上げ、効果的な情報を発信していくべきである。また、その際、発信する「人」が重要となってくるので、そのようなハブ的な人材を養成していく必要がある。</p> <p>また、図書館の市内情報の収集は大切な活動であり、それらの情報をICTを活用して積極的に発信していることは評価できるが、他の文化芸術情報サイトと連携していくべきである。</p>

■基本方針5、施策18、推進する取組36、取組の内容72(うち実施58、検討13、調査1)

基本方針	施策	推進する取組	取組の内容	H28年度	(参考)H27年度
				推進委員会評価コメント事務局取りまとめ(案)	推進委員会評価コメント
施策3 文化芸術を発信する機会・環境の提供⑧					
		【2-3-1】活動場所の充実を図る	<p>① 練習場所の最適化を検討 (実施プロ担当)</p> <p>② 発表場所の最適化を検討 (実施プロ担当)</p> <p>③ ストリートパフォーマンスの検討</p>	<p>⑧ 市民の活動場所の充実を図るには、スポーツ施設に限らず、あらゆる文化施設での相互利用など近隣市区との密接な連携が必要である。</p> <p>文化団体の活動場所として圧倒的に不足しているのは練習場所であり、特に大きな音を出す団体・メンバーの多い団体が本当に困っているため、小中学校の講堂、体育館などの休日利用を検討する必要がある。</p> <p>発表場所については、小中学校や福祉施設などの利用も検討する必要がある。</p> <p>アウトリーチを求めている施設・学校などを調査し、そのニーズを文化活動団体へフィードバックする必要がある。</p> <p>市民にとって最適な活動機会の提供や環境づくりを検討する際には、ハード面だけではなく、職員のコーディネート能力の向上などソフト面の環境を整えることも大切である。</p> <p>市民まつり開催時に、駅周辺イベントとしてストリートパフォーマンス的なフラッシュモブを検討することも大切である。</p> <p>おでかけ図鑑を作成しているので実績として入れるべきである。のか？</p> <p>市民会館の建て替えによる練習場の新設が必要である。</p>	<p>⑧ 市民にとって最適な活動機会の提供や環境づくりを検討する際には、ハード面だけではなく、職員のコーディネート能力の向上などソフト面の環境を整えることも大切である。</p> <p>ストリートパフォーマンスの検討については、担当課で積極的に取り組むべきであるが、ペディストリアンデッキの利用についての道路管理課の前向きな姿勢は評価できる。</p> <p>市民の活動場所の充実を図るには、スポーツ施設に限らず、あらゆる文化施設での相互利用など近隣市区との密接な連携が必要である。</p> <p>市民まつり開催時に、主要駅から会場へのシャトルバスを運行しているため、駅周辺でもイベントを行い、まち全体で盛り上げるべきである。</p>
		【2-3-2】利用しやすい施設の提供	<p>① 公共施設の利用環境の整備</p> <p>② 交通機関等アクセス方法の検討</p>		
基本方針3 「伝統文化等の継承」					
施策1 文化財の保存・継承と活用⑨					
		【3-1-1】文化財の保存・継承	<p>① 文化財の保存・継承 (実施プロ担当)</p> <p>① 郷土資料室の運営</p> <p>② 地域・行政資料室の運営</p>	<p>⑨ 下野谷遺跡で週末にイベントを開催し、人が多く集まるように、縄文人の当時の知恵を教えるワークショップなどを開催してみたいのでは。</p> <p>郷土資料室はとても充実しており、多くの人に見ていただきたいので、場所を移す検討をしたり、イベントとタイアップしたりするのでは。また、人を誘導できるようなパイロットルームを、アスタなど駅の近くやもっと見てくれる場所につくることも検討する必要がある。モニュメントやレプリカをつくって各駅などに設置して、誘導するののも一つの方策である。</p> <p>市民文化祭では、西東京市の文化財を水とのかかわり、人の往来、物資の流れなど様々なストーリーにまとめて市民に紹介しており、好評を得ている。この試みをさらに充実していく必要がある。</p>	<p>⑨ 下野谷遺跡を市の最重要文化財として今後どのように活かしていくかを、全市的に取り組むべきである。</p> <p>現在実施している、市内中学生を対象とした縄文遺跡を活かしたまちづくり提案ワークショップは良い取組として評価できるので、今後も、特に若年層の愛着形成につながるような施策を期待したい。</p> <p>文化財めぐり「西東京市の戦跡をめぐる」等の事業で地域・行政資料室所蔵の写真や資料の積極的な公開や、図書館所蔵資料のデジタル化は評価できる。</p>
		【3-1-2】文化財の活用	<p>③ 文化財を活用したイベント等の実施 (実施プロ担当)</p> <p>④ 刊行図書やマップ等で文化資源の情報を提供</p>		

■基本方針5、施策18、推進する取組36、取組の内容72(うち実施58、検討13、調査1)

基本方針	施策	推進する取組	取組の内容	H28年度 推進委員会評価コメント事務局取りまとめ(案)	(参考)H27年度 推進委員会評価コメント
		施策2 地域の伝統文化についての検討⑩			
		【3-2-1】 地域の伝統文化についての検討	① 地域の伝統文化の検討 (実施プロ担当)	⑩ 地域の伝統文化とは何かということをもっと検討すべきである。例えば、外国籍市民に伝統文化を体験してもらって、一緒に地域の伝統文化について考える機会をつくってもいいのでは。	⑩ 伝統文化とは何かということをもっと検討すべきであり、伝統工芸にも目を向ける必要がある。 また、このまちの伝統文化とは何かを、関係者に取材することも必要である。
基本方針4 「文化芸術を担う人づくり」					
		施策1 文化芸術を支える人材の育成と仕組みづくり⑪			
		【4-1-1】 文化ボランティアの育成	① 文化ボランティアの育成 (実施プロ担当)	⑪ 文化ボランティアの育成については、取組は素晴らしく高い評価であるが、将来的には対価を渡すなど何らかのメリットを提示する必要があるのでは。 また、文化ボランティアの安定した活動を促進するためには、公募を継続していく必要がある。 西東京市ボランティア・市民活動センターとの連携、企画・運営コーディネーターの養成、文化芸術情報サイトについては、引き続き、検討していくべきである。	⑪ 「対話による美術鑑賞」事業を小学校で定着させるためには、アートミューズは積極的に養成し、質量共に増やし、自主的な運営ができるように努めるべきである。 文化ボランティアの制度化を図るには、社会福祉協議会が運営している西東京市ボランティア・市民活動センターとの連携は不可欠であり、同センターのHPの文化芸術情報欄を活用していくべきである。 企画・運営コーディネートの支援については、コーディネーター養成講習などを庁内で実施し、市民が自主的に企画・運営した事業やイベントにおける課題について、職員が専門的なアドバイスを行えるようにしてもいいと思う。 市民が自主的に企画・運営している文化芸術イベントへの職員による取材は素晴らしいので、今後も継続すべきであり、それらの情報を総合的な文化芸術情報サイトで発信できることが望ましい。
		【4-1-2】 企画・運営コーディネートの支援	① 活動団体の自主企画や運営についてアドバイス		
		施策2 文化芸術を支える人材の活用⑫			
		【4-2-1】 地域の人材との連携による指導・支援の機会の創出	① 文化ボランティアの活用 (実施プロ担当)	⑫ 文化ボランティアの活用については、実績から高く評価できるが、文化ボランティアの能力アップのために、実践する機会を増やしていく必要がある。 小学校での「対話による美術鑑賞」授業はとても良い事業だと思うが、ボランティアの人数が増加していかないと、ボランティアの負担が大きくなり、小学校全校で実施していくのが難しくなってしまうのでは。	⑫ 「対話による美術鑑賞」事業を小学校で定着させるためには、アートミューズは積極的に養成し、質量共に増やし、自主的な運営ができるように努めるべきである。 文化ボランティアを活用して、文化芸術活動の機会をつくるためには、社会福祉協議会が運営している西東京市ボランティア・市民活動センターとの連携は不可欠であり、同センターのHPの文化芸術情報欄を活用していくべきである。 文化ボランティアが自立した活動を継続的に行うための仕組みづくりに関しては、成功している事例を探して、それを西東京で応用していければ望ましい。その際、中高生のボランティアの活かし方を視野に入れる必要がある。
		【4-2-2】 活動団体との連携による活動機会の創出	① 公民館登録団体一覧の活用		

■基本方針5、施策18、推進する取組36、取組の内容72(うち実施58、検討13、調査1)

基本方針	施策	推進する取組	取組の内容	H28年度 推進委員会評価コメント事務局取りまとめ(案)	(参考)H27年度 推進委員会評価コメント
		施策3 青少年や高齢者の文化芸術活動の支援^⑬			
		【4-3-1】 青少年の文化芸術活動の支援	① 青少年の文化芸術における自主企画事業の実施 ② 下保谷児童センターの運営	⑬ 特別なスキルを持っている高齢者は多くいると思うので、調査し人材登録してPRするといいいのでは。	⑬ 青少年が自主的に企画・運営する児童青少年課の事業や、高齢者の生きがいを持った暮らしを推進するための事業は評価できるので、行政が積極的に取り組んでいる事業をもっとアピールすべきである。
	【4-3-2】 高齢者の文化芸術活動の支援	① 生きがい推進事業 ② 高齢者クラブ ③ 高齢者いきいきミニデイ事業			
基本方針5 「交流による活動の拡大・活性化」					
		施策1 活動団体の交流機会の創出^⑭			
		【5-1-1】 イベント開催による交流機会の創出	① 活動者が交流できるイベントの実施	⑭ 文化振興課関連のイベントは成功しているが、参加団体相互の交流はあまりないと思うので、機会をもっと作るよう努めるべきである。	⑭ 市民文化祭や市民まつりには毎年多くの市民が集まるが、時代に合わせて毎年見直しをする必要があり、何らかの指標を設定し、事業効果を図るべきである。
		【5-1-2】 活動情報の交換による交流機会の創出	① 活動者が意見交換できる場の提供 <実施プロ該当>		
		施策2 国際文化交流の促進^⑮			
		【5-2-1】 国際文化交流イベントの開催	① 外国籍市民が交流できるイベントの実施	⑮ 外国籍市民が、伝統文化をもっと体験できる機会を作る必要がある。	⑮ 国際文化交流を促進するためには、ロータリークラブなど民間とも積極的に交流すべきであり、今後は、オリンピック絡みの政策などとある程度同調して取り組んでいく必要がある。
		【5-2-2】 多文化交流を支援するスタッフの育成	① 多文化交流支援スタッフの育成		
		施策3 近隣市や姉妹都市・友好都市との交流促進^⑯			
		【5-3-1】 近隣自治体との連携	① 近隣住民が交流できるイベントの実施 <実施プロ該当>	⑯ 姉妹都市の下郷町から映画監督を招き、映画上映会やトークショーを実施したりする交流は高く評価できる。 姉妹都市のPR促進は、継続的に実施していくべきである。	⑯ 映画制作ワークショップは、面白い取組であり、多摩六都フェア以外の事業でも北多摩5市で連携する取組ができると良い。 姉妹都市の下郷町から映画監督を招き、映画上映会及びトークショーを実施したことも評価できる。 多くの市民が地方都市とつながっている県人会などと、うまく連携していく必要がある。
			② 他自治体の施設状況の調査		
	【5-3-2】 姉妹都市・友好都市との連携	① 都市間交流ができるイベントの実施			

■基本方針5、施策18、推進する取組36、取組の内容72(うち実施58、検討13、調査1)

基本方針	施策	推進する取組	取組の内容	H28年度	(参考)H27年度
				推進委員会評価コメント事務局取りまとめ(案)	推進委員会評価コメント
施策4 市内関係機関等との連携⑰					
		【5-4-1】 教育機関との連携	① 市内大学との連携の充実 ② 教育機関とのイベントの連携 〈実施プロ該当〉	⑰ 市民まつりや市民文化祭に、多くの学生が参加していることは評価できるが、市内の大学及び近隣の大学との連携をもっと図るべきである。	⑰ 市民まつりや市民文化祭に、多くの学生が参加していることは評価できるが、市内の大学及び近隣の大学との連携をもっと図るべきである。
		【5-4-2】 市内事業者との連携	① 市内事業者との連携の充実 〈実施プロ該当〉		
施策5 文化芸術分野の専門家との連携⑱					
		【5-5-1】 地元アーティストとの連携	① 地元アーティストとの連携の充実 〈実施プロ該当〉	⑱ 市内在住や出身など地元アーティストの情報を積極的に集め、地元アーティストと連携した事業を推進していく必要がある、そのためにも、最新の情報が効果的に掲載されている情報サイトが必要である。 地域の文化活動を支えているそれぞれの分野での指導者(家元、師匠、指揮者、など)を、広く市民に紹介するシステムを構築することが必要である。 市内には芸術大学の卒業生が多数在住していると思われるが、彼らはその技能を生かす機会に恵まれていないので、市のホール、公民館などで彼らと市民が触れあう場を用意して市民が手軽に文化を楽しむことができれば双方にとって有用であると考え。	⑱ 市内在住や出身など地元アーティストの情報を積極的に集め、地元アーティストと連携した事業を推進していく必要がある、そのためにも、最新の情報が効果的に掲載されている情報サイトが必要である。

【総論】

- ・昨年度の評価コメントに対する所管課の取組(アクション)を明確にすべきである。
- ・評価については、自己評価ということではほとんどが「A」となっているが、同じ「A」でも事業によって差があるので、評価基準も含めて見直す必要がある。
- ・計画の目指すべき姿として「市民一人一人が文化芸術を享受・創造・発信できる文化の香りあふれるまち」があるが、まだまだ多くの人が享受できていないと思うので、そのためには何をすべきかを検討していく必要がある。